テーマ 外形標準課税導入の影響と沖縄三線の関係

みなとロータリー 宅話 2001年10月9日(火)

公認会計士・税理士 渡辺俊之

はじめに

まず 一曲 ◎「与那国小唄」三線演奏並びに唄

I、法人事業税の「外形標準課税」化 について

1、現在の法人の主要な税の負担状況

	課税ベース	税率など	税額
法人税 (国税)	法人の所得	税率30%	12兆円
法人事業税 (都道府県税)	法人の所得	税率9.6%	4.2兆円
法人住民税 (①都道府県税+②市町村税)			
法人税割	法人税の5.0%①、12.3%②		2.6兆円

【均等割】	資本等の額別で7~380万円		0.5兆円
【固定資産税】(市町村税)	評価額の1.4%(都市計画税は0.3%)		
	償却資産 1.8兆円 法人の土地・家屋		3.2兆円
【事業所税】(人口30万人以上の市)			0.3兆円
	資産割; 1㎡ 600円 従業者割; 給与総額の0.25/100		

II、外形標準課税と沖縄(明治以前)の人頭税

外形標準課税とは、法人等に対して、「賃金」や「資産」等の『所得』以外の指標を用いて課税を行う制度。

沖縄(明治初めまで)の人頭税は「身長145cm」という外形的指標で課税特に宮古・八重山・与那国地域の悲惨さは 壮絶

人頭石 (課税標準の石)

久部良バリ

張水ぬくいちゃー (人頭税廃止を勝ち取った喜びの民謡)

III、悪税の苦しみ(江戸明治初期の沖縄離島の話)

琉球王朝の財政再建 → 黒糖生産技術の入手と専売制

島の娘が現地妻になることくらいしか家の安泰が望めなかった時代の苦しみ、恨み、嫉み

◎ 沖縄民謡 新「あさどやユンタ」 (三線演奏並びに唄)

IV、東京都の銀行課税

業務粗利益に課税する東京・大阪の銀行課税も、政府税制調査会等で検討されている「全国一律」・「全業種」の事業税課税も 言葉は「外形標準課税」

東京都の銀行課税 ⇒ 資金量 5 兆円兆の銀行に、業務粗利益に 3% の税率

$\text{業務粗利益} = \text{業務純益} + \text{「営業経費（人件費 + 物件費等）} + \text{一般貸倒れ引当金}」$

V、法人事業税（外形標準課税導入）及び環境税の導入に係る調査依頼

平成 13 年 7 月 26 日付

提出期限 平成 13 年 8 月 20 日

ある業界団体の実態調査回答表 の例 別紙

VI、法人事業税の改革案の具体的内容（平成 12 年 1 1 月（旧）自治省）

別紙 コピー

VII、唄に見る 役人の腐敗 今と昔（沖縄の離島）

今 ⇒ 外務省・（旧）大蔵省・厚生省（ホテル代水増し請求 ランジェリパブ）

昔 ⇒ 沖縄離島の目差 与那国役人とその妾同士の裏面を描いた風刺唄

◎ 与那国猫小（まやぐあ） （三線演奏並びに唄 CD）

VIII、人生のエクスタシー

夫婦愛の歌

◎ 胆がなさ節 （三線演奏並びに唄）

詩の解釈いろいろ 別紙